

# 天文教育

2021

# 3

*Japanese Society for Education and Popularization of Astronomy*



〈特集 1〉関東支部会「コロナ禍における天文教育普及」

〈特集 2〉中部支部会「Society 5.0 時代に向けた天文教育」

〈投稿〉星座早見用の鏡像天球儀／視覚障害教育における天文分野の教材の工夫

〈その他〉2021 年日本天文教育普及研究会年会のお知らせ（第 1 報）

一般社団法人 日本天文教育普及研究会

## 本誌原稿募集のお知らせ

編集部では下記の原稿を募集しております。会員の皆様からの活発なご投稿をお待ちしております。なお原稿の投稿は、編集部から依頼した場合を除き、原則として当会会員の方に限らせていただきます(共同執筆者に会員を含む場合はこの限りではありませんが、投稿は会員の方からお願いいたします)。

1. **原著論文**：天文教育・普及について、オリジナル性があり考察が優れ、学術論文として主要内容が印刷発表されていないもの。表題、アブストラクト(要旨)には英文も付けてください(英文は審査通過後に追加も可)。
2. **解説記事**：天文学や天文教育・普及に関する解説・紹介記事や、さまざまな天文教育や社会教育などの実践記事。分量は刷り上がりで6~10ページ程度。
3. **各種の報告など**：支部会やワーキンググループの活動報告、各種のイベントの報告など。分量は刷り上がりで2~4ページ程度。
4. **書評**：天文学や天文教育・普及に関する書籍の紹介。分量は刷り上がりで1~2ページ程度。
5. **会員の声**：会員の皆様からのご意見・ご感想など。分量は刷り上がりで1ページ程度。
6. **表紙の写真**：タイトルと400字以内の「表紙の言葉」ともにご投稿ください(写真のみでも構いません)。
7. **情報コーナー(各種会合・イベントの告知など)**：支部会やワーキンググループの会合、また天文学に関する各種の会合・イベントなどの情報。分量は任意ですが、スペースの関係で適宜省略させていただく場合があります。会合・イベントの開催日と会誌の発行日(奇数月下旬)にご留意ください。

- ・**締め切り**：1は随時受け付け、2~7は偶数月(発行の前月)15日です。投稿先は [post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net) です。
- ・本誌に掲載された記事は、1年後以降に当会 Web サイトにて pdf ファイルの形で一般に公開することを予定しております。インターネットでの公開に差し障りのある場合は、ご投稿の際にその旨ご連絡ください。
- ・**広告掲載**を希望される方は事務局 ([jimu@tenkyo.net](mailto:jimu@tenkyo.net)) までお申込みください。掲載料は B5 判 1 ページ ¥20,000、半ページ ¥12,000、1/4 ページ ¥7,000、チラシの折り込み ¥20,000 です。

### 【編集委員会からのお願い】

『天文教育』の編集は、すべて会員からなる編集委員によって行なわれています。ご投稿の際には以下の点についてご協力いただけますよう宜しくお願いいたします。

- ・原稿の投稿は、原則として Microsoft Word ファイルでお願いします。
- ・執筆用のテンプレートが当会 Web サイト (<https://tenkyo.net/>) からダウンロードできます。できるだけこのテンプレートをご利用くださるようお願いいたします。執筆上の留意点なども記しています。
- ・十分に推敲を重ねた完全原稿でご提出ください。分量や内容によっては手直しいただく場合もあります。
- ・提出データは必ず各自でバックアップしておいてください。
- ・Word 以外に一太郎ファイルやテキストファイルでも受け付けております。
- ・原稿のご投稿やご質問は電子メールにて、下記のアドレスへお願いいたします。

投稿先・質問先 メールアドレス：[post@tenkyo.net](mailto:post@tenkyo.net)

## 表紙の言葉

### 静かな春の夜

2020年4月27日20時38分 Canon EOS5DMkIV  
+Nikon AF-S NIKKOR 24-70mm f/2.8G ED (f1=28mm,  
F=2.8, 1.5,10sec HDR 合成) (長野県小川村)  
撮影・解説：大西浩次

天空のリズムは、私たちの想いに関わりなく刻んでゆく。地球は、自転しながら日を刻み、公転をしながら年を刻んでゆく。一方、私たちは、このようなリズムの中で生活しながら、時にはいろんな災害や疫病に振り回されながら生活している。そう、昨年の今頃は新型コロナウイルス感性症(COVID-19)の蔓延に伴う最初の緊急事態宣言の最中にあった。

学校では卒業式が中止になり、簡素な入学式から新年度が始まった。新学年の授業はオンラインで始まるという事で、学生の声のない学校で、授業資料の作成やオンライン授業など、意外と気忙しく、緊張を強いられる日々が続いていた。気づくと街の中の桜は散っていた。夜、里山の桜の名所に出かけると、誰もいないのに桜が満開に咲いていた。北アルプス、鹿島槍ヶ岳の上には、細い月、その左下に金星が輝いていた。自然のリズムに圧倒されながら、星や自然は私たちとどうかかわりあるのだろうと考えずにはいられなかった。今も再び緊急事態宣言が続いている。こんな時代だからこそ「天文教育」のできることは大きいのではないだろうか。